

# 令和3年度 中学生の「税についての作文」

東京国税局長賞

## 「税の課題と希望」

柏市立西原中学校 三年 吉田 愛叶

私は最近、様々なメディアを通して税についての話をよく耳にします。その中で、税へのイメージが個人だけでなく、各国で異なっているということを知りました。日本では、税に対するイメージがマイナスであることが多いのに対し、北欧諸国では、プラスのイメージであることが多いようです。そこで、一つ疑問が浮かびました。それは、「経済的な豊かさが同程度の国々の間にある、税に対するイメージの差の要因は何か」というものです。

この疑問の答えを見つけるにあたり、まずは税の存在意義について考えました。私は、「税は資本主義の欠点である、経済格差を最小限にするため」だと考えました。

では、日本の経済格差の現状はどうなっているのでしょうか。経済格差を示す係数の一つに、ジニ係数がありますが、それを用いて日本とデンマークを比べてみました。日本とデンマークの値は、それぞれ三二・九四パーセントと二八・二七パーセントでした。値が小さい程、格差が小さいことを示すので、デンマークは日本よりも微かに経済格差が小さいことがわかります。

また、デンマークは世界的に税の負担額と幸福度が高い国の一つとして知られています。幸福度には、税へのプラスのイメージも含まれると考えられます。以上のことから、税に対するプラスのイメージの要因は、税の負担額ではなく、経済格差の小ささと関係があると考えられます。

しかし、疑問の答えとしては、まだ不十分なので、別の視点でも考えてみました。それは、国民に対するリターンの大きさです。財務省によると、日本の一般会計歳出総額に占める社会保障の割合は、デンマークのものより数十パーセント小さくなっています。このことから、デンマークは日本よりも、納めた税に対するリターンが大きいとわかります。

以上のことから、「税に対するイメージの差は、経済格差とリターンの大きさに関係している」という答えを導き出すことができました。

私は、この答えにたどり着くまでに、税金のあり方について感じたことがあります。それは、「税は寄付と投資の二つの側面をもった、素晴らしいものになれる」ということです。私達は、税を納めることで、苦しんでいる仲間を助け、将来の自分たちの生活も保障してもらうことができます。そのために必要なことは、全ての国が自分たちに足りない点を見つけ、他国から学ぶことです。日本も、まだ学ぶべきことが沢山あります。しかし、我々日本人の長所である謙虚さと、勤勉さの精神でこの課題に立ち向かって行けば、日本は、更に素晴らしい社会を築くことができます。